

小学生・中学生・高校生のための

第29回吃音親子サマーキャンプのご案内

これまで自分以外のどもる子どもと出会ってこなかった子どもたちは、参加しているどもる子どもの多さに、「私だけではなかった」とまずほっとします。吃音についての話し合いでは、同じような体験をしているだけに、みんなの話に耳を傾け、「私も同じだ」と自分も語り始めます。音読や発表が苦手だという子どもも、みんなの支えの中で、表現活動の演劇に取り組みます。どもっているそのままだが受け止められる空間で、自分のことばや表現に取り組み、みんなでひとつの劇を上演し終えたとき、「私にもできる」という達成感、充実感を持つことができます。

28年間、吃音親子サマーキャンプはいろいろなドラマを生み出してきました。

昨年は、北は千葉、東京、神奈川から、南は沖縄、鹿児島、福岡、大分をはじめ、関東地方、中部地方、近畿地方、四国地方などから、どもる子ども（小学生、中学生、高校生）が39名、きょうだい11名、保護者41名、ことばの教室の教師、言語聴覚士、養護教諭、支援学級や通常の学級の教師、どもる大人など、合計136名が参加しました。

このキャンプは父親の参加が多いのが特徴です。是非ご家族でご参加下さい。

<作文教室での作文> □ ともりの楽しさ □ 金子嘉那（高校1年生 東京都）

今、私が自分のどもりについて思っていることは半年前とは大きく変わりました。

以前は、どもりが嫌で、周囲が私のどもりをどう思っているのか、変だとバカにしていたり、同情していたりするのかわかり、と考えると悩んでいました。そのときは、自分の弱さを知られたくないと思って、誰にもどもりのことを言わなかったし、どもって立ち往生したり、何か言われたりしても笑ってごまかしていました。それが中学に入って居心地の悪い思いをすることが増え、そのうちに自分からは何もできないようになってきて、この先やっていけるのかと不安に思うようになりました。そんな中、サマーキャンプのことを知り、行ってみれば何かが変わるかもと思いましたが、どうしても両親に自分がどもりで困っていることを言い出せませんでした。そこで、思い切って吃音ホットラインに電話をし、伊藤さんに相談してみました。私としてはその内容以上に、伊藤さんのどもりながらの話し方が、今まで思っていたどもりのイメージとは違い、親身になってくれているように思いました。そのことに励まされ、初めて母にどもりについて切り出し、サマーキャンプ行きを説得するために何度も話し合いました。するとそのうちに自分がどもりだと思うことに抵抗がなくなってきました。

サマーキャンプでは、初めはかなり不安だったのですが、フレンドリーな子が話しかけてくれ、それから一気になじめてうれしかったです。どもりについての話し合いでは共感できるものばかりでした。どもってもいいと思うと大人や小さな子にも声をかけられるようになり、話し合いでも自分の思ったことを言ったり、質問したりできるようになりました。どちらも普段はできなかったことなので、驚くと共に積極的に動けた自分がうれしくなりました。2日たった今はすっかりどもりながらの関西弁に慣れてしまい、どもりについて話すことということが嫌でないどころか、もっとしたい、話し足りないと思えるようになりました。

今回、どもりながらも明るくて笑顔のすてきな人やおもしろくて笑いの絶えない人など、人間的な魅力のあるたくさんの人たちに出会えてよかったです。おかげで、どもりは悪いことでも劣っていることでもないということが実感できました。どもりって楽しいものだなあと初めて思いました。大人たちも明るく楽しそうにしている雰囲気ですてきでした。

吃音親子サマーキャンプが 大切にしていること

私たちどもる大人と、ことばの教室の教師や言語聴覚士が協働で取り組む、吃音親子サマーキャンプは世界的にも珍しいものです。

私たちは、同じようにどもる仲間と出会い、いっぱい話をし、いっぱい話を聞き、その中で新しい生き方をつかんできました。セルフヘルプグループで私たちが得てきたものを子どもたちに伝えたい、そして実感してほしいと願って、キャンプを企画し、28年続けてきました。大事にしていることばは、次の3つです。

- あなたはあなたのままでいい** (自己肯定)
- あなたはひとりではない** (他者信頼)
- あなたには力がある** (他者貢献)

子どもたちにとっては、自分のどもりと向き合うキャンプです。楽しいだけのキャンプではありません。自分をみつめ、自分のどもりをみつめる時間になればと思っています。ひとりでは難しいことでも、仲間の支えがあればできることも多いものです。

私たちは親子で参加することをとても大切にしています。ライフステージによって、吃音の問題は変化していきます。学童期・思春期と成長する子どもたちの人生の、よりよい伴走者となっていただくためには、親の参加が不可欠なのです。子どもだけの参加は認めていません。高校生であっても親子で参加していただきたいと願っています。

親自身も、子育てだけでなく、自分の人生を振り返り、生き方をもう一度考えてみるきっかけになればと思います。どもる子どもをもつ親同士が交流することで、親のセルフヘルプグループができることとなります。親は、単なる付き添いではなく、一緒にプログラムに参加していただきます。親の話し合いや学習会だけでなく、子どもたちの芝居の上演の前に、表現のパフォーマンスもあります。親も自分の声やことばを大切にしてほしいと願うからです。

このような願いのもと、吃音親子サマーキャンプの3つの柱は、次のとおりです。

吃音についての話し合い

子どもは子どもで、年代ごとに集まって話し合い、親は親で話し合いをします。それぞれのグループに、ファシリテーターとして、ことばの教室などの教師や言語聴覚士などの専門家と、成人のどもる人が入ります。

ことばのレッスンと芝居の上演

表現活動として演劇に挑戦します。自分のことばや表現に取り組み、練習をし、最終日に上演します。

親の学習会

子育てで大事にしたいこと、物事をどうとらえるかの練習、などいろいろな心理療法を 使
いながら学習を深めます。

日時 2018年8月17・18・19日（金・土・日）
8月17日（金）13：00～19日（日）13：30

場所 滋賀県彦根市荒神山自然の家
〒522-0047 滋賀県彦根市日夏町字宮前4794番地
TEL 0749-28-1871

主催 吃音親子サマーキャンプ実行委員会

参加費 ひとり16,000円（大人・子ども同額）
（2泊3日の宿泊費用・食事費用、資料代、保険などを含み、全ての費用）
どもる子どものきょうだいの参加費は、13,000円

後援 滋賀県教育委員会
NHK厚生文化事業団近畿支局
朝日新聞厚生文化事業団

申し込み方法 所定の申し込み用紙に、ご記入の上、お申し込み下さい。
氏名と年齢については、保険の関係上、参加される家族全員分が必要で
す。申し込み用紙は、事務局にあります。お問い合わせ下さい。
申し込みと同時に、参加費を郵便振替でご送金下さい。 ※昨と変わりました※

参加費の送金について 郵便局に備え付けの郵便振替用紙をご利用下さい。
加入者名 日本吃音臨床研究会 口座番号 00970-1-314142
申し込み用紙と参加費の送金の確認ができましたら、参加受付完了の最終案内をお送りし
ます。郵便振替の手続きには4、5日かかりますので、できるだけ申し込みと同時に参加費の
送金手続きをしていただけますよう、お願いします。なお、ご都合で参加できなくなった場
合は、キャンセルに必要な経費を差し引いて全額返金致します。

申し込み締め切り 8月4日（収容に限りがあり、宿舍が定員になり次第締め切ります）

申し込み・問い合わせ 日本吃音臨床研究会事務局
〒572-0850 大阪府寝屋川市打上高塚町1-2-1526
TEL/FAX 072-820-8244

参加にあたって、ご心配なことがありましたら、遠慮なくお問い合わせ、ご相談下さい。
夜の8時過ぎなら連絡がつきやすいです。

★ ことばの教室の担当者、言語聴覚士の皆様の参加は大歓迎です ★

ことばの教室担当者や言語聴覚士の方をはじめ、臨床家の方々の参加を歓迎します。
現在ご指導中の子どもや終了した子ども、その保護者にご紹介いただければ幸いです。

日程・プログラム

	17日	18日	19日
6		起床・洗面・スポーツ	起床・洗面・スポーツ
7		朝食	朝食
8		活動4 作文教室	活動9
9			〈子〉劇の練習 〈親〉表現活動練習
10		活動5 話し合い	活動10 劇上演
11			
12	河瀬駅バス出発	昼食	活動11 ふりかえり 昼食
13	入所のつどい	活動6 〈子〉劇の練習 〈親〉学習会	自然の家バス出発
14			※13:30終了とします。
15	開会のつどい 活動1 出合いの広場	活動7 〈子〉野外活動 〈親〉学習会	河瀬駅への送迎バスの 出発は、13:45。河瀬駅 には14:00到着予定。
16			
17	夕食	夕食	
18	活動2 話し合い		
19		活動8 〈子〉劇の練習 〈親〉フリートーク	
20	活動3 劇プロローグ スタッフによる上演		
23			